

第 1 部 13:30	<b>主催者挨拶</b> <b>三好 信俊</b> (環境省総合環境政策局長)
13:40	<b>事業成果報告</b> <b>&lt;プレゼンター&gt;</b> <b>後藤 敏彦</b> (環境監査研究会代表幹事: 本事業ワークショップ座長) <b>大塚 俊和</b> (NTT データ経営研究所 シニアマネージャー) <b>・活用事例紹介</b> ① 環境情報開示システム 分析支援ツールの活用事例 <b>高橋 工</b> (大成建設株式会社 環境本部 企画管理部 地球環境室 課長) ② 攻めの情報開示を通じた企業価値向上へ向けて <b>福渡 潔</b> (損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社 CSR・環境事業部) ③ 環境開示情報を活用したショートコメント配信の概要 <b>中川 博貴</b> (株式会社フィスコ IR 取締役 COO)
15:00	<b>休憩</b>
第 2 部 15:30	<b>パネルディスカッション</b> <b>「ESG 投資促進の視点から探る環境情報開示システムの利用可能性」</b> <b>&lt;モデレーター&gt;</b> <b>清水 順子</b> (学習院大学 経済学部教授) <b>&lt;パネリスト&gt; ※50 音順</b> <b>粟野 美佳子</b> (WWF ジャパン 自然保護室 ビジネスと生物多様性担当) <b>飯塚 優子</b> (住友林業株式会社 CSR 推進室長) <b>近江 静子</b> (アムンディ・ジャパン株式会社 運用本部 リサーチグループ ESG リサーチ部長) <b>西堤 徹</b> (トヨタ自動車株式会社 環境部コミュニケーション室ブランド企画グループ プロフェッショナル・パートナー) <b>山中 清</b> (T&D アセットマネジメント株式会社 執行役員 運用部門担当チーフ・インベストメント・オフィサー 運用統括部長)
16:50	<b>閉会挨拶</b> <b>河口 真理子</b> (大和総研 調査本部 主席研究員:本事業ワークショップ委員)

## <概況>

参加者は、約 350 名でした。

第一部 ～参加企業、金融機関からのアンケートの分析や、活用事例の紹介など～

本事業ワークショップ座長の後藤敏彦氏、NTT データ経営研究所の大塚氏による、トークスタイルでの、アンケート結果分析。ここではデータを開示する企業側と、情報を利用する側の投資サイドとの意識の違いなどを確認、また、今回導入したコミュニケーションツールに対するアンケートにおけるコメントなどから、このツールの利用可能性について、言及。その後、本開示システムに登録されたデータの分析に資する、今回導入した「分析支援ツール」の活用方法について、大成建設(株)の高橋氏から、自社開示データを他社データの比較等で詳細にあらゆる角度から分析した結果について説明。

損保ジャパン日本興亜リスクマネジメントの福渡氏より、2 / 2 5 に開催した本事業参加金融機関による座談会での意見等について、フランスのシンクタンクのユーグ・シュネ氏が、座談会にて講演された、フランスのエネルギ転換法 173 条に関する情報提供、分析支援ツールを使っの業種毎の開示状況分析結果について説明。

フィスコ IR 中川氏から、「ショートコメント」配信のトライアルについて、実例を挙げて、結果報告。企業が配信したいと思う情報と、一般的に投資家に資するであろうと考える情報とのギャップ、必要となる情報の整理のあり方等について説明。

休憩(30分)では、ホワイエにコーヒー茶菓子が用意、参加者間の意見交流の場として利用されました。

環境情報開示システムのデモ機を設置、本開示システムについて直接内容を理解する機会として活用いただきました。

第二部では、パネリスト各位から、自社取組などを5分程度で発表いただき、その後ディスカッションへと移りました。

そこでの意見としては、企業が開示すべき情報はまだ投資家が必要とする情報として統合化されていない、一方（今回新たに導入された）コミュニケーションツールの活用状況を見ると、そこを改善していく気づきのようなものにもなってくる、特に投資家サイドが、ESGの情報を知りたいというときに、IR部門経由ではなく、直接CSR部門に確認ができる等、投資サイドとして利用可能性を感じる、地球温暖化への対応が、環境面全体への取組とも相関関係があり、COP21のあと、この問題への取組状況を読み解く重要性は増している・・・そうした点ではCDPと連動した環境情報開示システムに将来性が見える・・・参加企業も増えた、見る側も本気で情報を見に行った、開示を取り巻く環境も、大きく変化している・・・そういう中でこの開示基盤はまだ様々な課題があるが、今後、実用性のあるものに高めて行くことが求められている・・・等のご意見が出されました。

ディスカッションの途中では、今回本事業に参加されている、スウェーデンの年金基金AP4の「アルネ氏」からのビデオメッセージを投影、字幕付きで英語で約3分のメッセージでしたが、本事業への深い理解と発展性について示唆を得る内容でした。

会場から、英語での開示の状況について質問がありました。あるパネリストからは、「英語開示されている企業の報告書でも、内容的に海外投資家のニーズに応えるレベル感にはまだ追いついていないと感じるところもある、ここは課題である・・・」といったコメントもありました。

河口真理子氏からの閉会挨拶では、本日の全体を通しての感想、今後への期待、参加者に向けての、ESG投資が今後普及する可能性などにふれたお話をいただきました。

入口の様子



主催者挨拶



第一部の様子（1）



第一部の様子（2）



